山梨県立大学地域研究交流センター 2017 年度研究報告書

年　報

山梨県立大学地域研究交流センター

目　次

地域研究交流センター長挨拶　「2017　巻頭言」・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅰ. 交流･発信部門 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　1. 部門事業の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　2. 部門事業の実績と課題について ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
【交流・発信部門の個別事業】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　1. 講師・委員等の応嘱 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　2. 学外からの相談などへの対応 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　3. 高校大学連携講座の実施 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　4. 教員の地域貢献活動への支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
　5. 学生による地域貢献活動への支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
　6. 大学周辺自治会との連携 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
　7. 池田地区総合防災訓練への参加・協力 ・・・・・・・・・・・・・・ 13
　8. 池田地区健康まつりへの参加・協力 ・・・・・・・・・・・・・・・ 15
　9. 穴切地区総合防災訓練への参加・協力 ・・・・・・・・・・・・・・ 17
　10. 「第 20 回山梨チャリティーラン 2017」へのボランティア参加 ・・・・ 18
　11. 年報の発行 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
　12. 地域研究交流センターニューズレター「tobira」の発行 ・・・・・・ 18
　13. ウェブサイトでの情報発信 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

Ⅱ. 生涯学習部門 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
　1. 部門事業の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
　2. 部門事業の実績と課題について ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
【生涯学習部門の個別事業】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
　1. 地域研究交流センター主催事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
　　（1）観光講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
　　（2）秋季総合講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
　2. 県民コミュニティーカレッジ事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
　　（1）地域ベース講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
　3. 地域連携講座事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
　　（1）日本語・日本文化講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
　　（2）山梨創生学講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
　　（3）やまなし市民後見人養成基礎講座 ・・・・・・・・・・・・・ 31

Ⅲ. 地域研究部門 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
１. 部門事業の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
２. 部門事業の実績と課題について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
（１）個別の研究事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
（２）研究報告会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
（３）実績と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
３. 部門の組織改編について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
（１）組織改編の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
（２）経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
（３）平成 29 年度の組織改編方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

Ⅵ. 事務局 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
１. 運営委員会記録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
２. 組織図・委員名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
３. 年間の時系列記録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
フライヤー等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44

2017 巻頭言

五年間にわたって展開してきました文部科学省補助金による地（知）の拠点事業、いわゆる COC 事業（本学事業名:課題解決プロセスと未来思考の対話による実践型カリキュラム構築）は本年度をもって終了しました。地域が抱えている多様な課題を、大学の多様な資源を活用しながら解決して行き、その研究や教育に反映するよう具体化することを目指して来ました。公立大学である本学にふさわしい取り組みが行われたと自負しています。

当然ながら、この事業内容は大学に継承して行くことが求められます。そこで、COC 事業を担ってきた地域戦略総合センターと地域研究交流センターを統合することになりました。組織上ばかりではなく、両者の事業内容も順次見直しを進めております。次年度は、試行的に地域研究交流センター「重点プロジェクト」を選定し、地域研究事業に位置づけ、地域との「対話→課題研究→発表→評価」という PDCA サイクルの確立を目標とします。

今後とも、統合した地域研究交流センターへ、山梨県内の地域・自治体・企業・大学等各方面から、お力添えをいただきたく、お願い申し上げます。

地域研究交流センター長
二戸 麻砂彦

交 流 ・ 発 信 部 門

1. 部門事業の概要

（１）講師・委員等の応嘱

学外の団体等からの依頼により、本学教員が講演、研修等の講師を務めるほか委員等へ委嘱された。

（２）学外からの相談等への対応

学外団体主催行事への協力、協力名義提供、施設提供などに対応した。

（３）高校大学連携講座の実施

城西高校、身延高校との高大連携講座を継続実施した。

（４）教員の地域貢献活動への支援

教員の地域貢献活動への支援メニューを企画・実施した。

（５）学生による地域貢献活動への支援

「学生優秀地域プロジェクト」認定・支援の制度に基づき、3 件のプロジェクトを認定・支援を行った。

（６）大学周辺自治会との連携

平成 28 年から大学周辺自治会との懇談会を設けており、今年度も飯田キャンパス周辺の穴切地区、池田キャンパス周辺の池田地区の各自治会長と懇談会を行った。

（７）池田地区総合防災訓練への参加・協力

本活動は今年度で 7 回目となり、本学は協力・指導団体として、池田地区連合自治会主催の総合防災訓練の企画会議から参加し、救護訓練を担当した。

（８）「池田地区健康まつりへの参加・協力

池田地区連合会からの依頼を受け、看護学部の教員と学生が「池田地区健康まつり」に参加・協力した。

（９）穴切地区総合防災訓練への参加・協力

平成 28 年から穴切地区連合会からの依頼を受け、人間福祉学部の教員と学生が穴切地区総合防災訓練での救護訓練を担当した。

（１０）「第 20 回山梨チャリティーラン 2017」へのボランティア参加

（文責：青柳暁子）

（１１）年報の発行

『2016 年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を 2017 年 5 月 31 日付けで発行した。

（１２）地域研究交流センターニューズレター「tobira」の発行

地域研究交流センターニューズレター「tobira」を、本学と地域を結ぶ機関紙として発行し、県内外の関係機関・団体等に配布した。2017 年度は下記の通り発行した。

①第 30 号：2017 年 5 月 31 日発行

②第 31 号：2017 年 11 月 6 日発行

なお、2016 年度から年２回の発行となり（2015 年度までは年 3 回)、大学の学年暦に合わせて、前期及び後期の初めに発行した。

（１３）ウェブサイトでの情報発信

ウェブサイトにおいて、地域研究交流センターの概要、生涯学習の案内、地域連携・支援の取り組み、地域研究、刊行物、活動記録等について情報発信した。

２．部門事業の実績と課題について

ウェブサイト、ニューズレター、年報の媒体を用いて、地域研究交流センターの事業活動について学内外に情報発信を行った。こうした情報発信は、事業記録としても有効であり、大学の説明や自己点検評価等にも活用されている。

2017 年度も、前年度と同様の体制のもとで、継続的に情報発信活動を行った。ニューズレターと年報については、おおむね予定通りのスケジュールで発行され、安定的に情報発信されている。ニューズレターは、2016 年度から年 2 回の発行となったが、紙媒体での情報発信には独自の意義があり、今後とも内容の充実を図っていく必要がある。ウェブサイトについては、さらに的確で効果的な情報発信のために、センター全体のビジョンに基づきつつ、大学全体の広報活動との関係もふまえて、戦略的な情報発信を進めていく必要がある。

（文責：渡邊輝美）

【交流・発信部門の個別事業】

１．講師・委員等の応嘱

本学教員は学外の団体・自治体・学校等から依頼を受け、各種講師・委員等に応嘱している。平成 29 年度の応嘱状況を下の表に示す。

これによれば，全学でのべ件 484 の応嘱があり，内訳は，講義・講演が 245 件，委員等が 177 件，その他が 62 件であった。学部別には，国際政策学部が 29 件，人間福祉学部が 172 件，看護学部が 278 件，職員等が 5 件であった。

なお，本報告における数値は平成 30 年 3 月 7 日までに地域研究交流センターが把握した情報に基づくものである。ここに示した数値は，大学に対し文書による派遣依頼がなされた案件，もしくは大学が人員選定等に関与した案件に限定されており，これ以外にも把握されていない案件が存在すると考えられる。

表１　平成 29 年度の講師・委員等応嘱状況

	依頼内容名			
学部名	講義・講演	委員等	その他	総計
国際政策	7	15	7	29
人間福祉	119	39	14	172
看護	119	123	36	278
職員等	0	0	5	5
総計	245	177	62	484

表２　平成 29 年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：講義・講演

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
幼稚園・保育園	0	2	0	0	2
小中学校	0	9	3	0	12
高等学校	2	3	1	0	6
専門学校	0	1	6	0	7
大学・短期大学	0	1	11	0	12
県関係機関	3	23	38	0	64
市区町村	0	41	9	0	50
各種団体	0	5	39	0	44
医療機関・福祉機関等	0	2	8	0	10
省庁等	0	0	0	0	0
その他	2	32	4	0	38
総計	7	119	119	0	245

表３　平成 29 年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：委員等

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
高等学校	3	0	0	0	3
大学・短期大学	0	0	1	0	1
県関係機関	8	19	31	0	58
市区町村	2	6	19	0	27
各種団体	0	0	67	0	67
医療機関・福祉機関等	0	2	4	0	6
省庁等	0	0	0	0	0
その他	2	12	1	0	15
総計	15	39	123	0	177

表４　平成 29 年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：その他

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
小中学校	0	0	0	0	0
県関係機関	4	0	7	1	12
市区町村	0	4	0	1	5
各種団体	0	1	22	0	23
医療機関・福祉機関等	0	0	0	0	0
その他	3	9	7	3	22
総計	7	14	36	5	62

（文責：青柳暁子）

２．学外からの相談などへの対応

地域研究交流センターは、学外と大学をむすぶ窓口として活動しており、さまざまな依頼・相談・照会等に対応するほか、学外団体主催行事への協力、協力名義提供施設提供などに対応している。本年度も各種活動への協力名義提供、施設提供を行った。

（文責：青柳暁子）

３．高校大学連携講座の実施

（１）甲府城西高等学校・山梨県立大学連携事業（看護・福祉学部）

「山梨県特色ある高校づくり支援事業」として城西高校からの依頼を受け平成 18 年度より実施している看護・福祉系進路希望者を対象とした「家庭看護・福祉」の科目の高校大学連携講座を、本年度も継続して実施した。看護学部 8 名、人間福祉学部 6 名、計 14 名の教員の協力があった。教員名とテーマは以下の通りである。

表 5　29 年度　甲府城西高等学校･山梨県立大学連携授業

月日	担当先生	講義テ･マ
5 月 23 日	古屋祥子	医療・福祉と美術
6 月 20 日	加藤淳也	心臓血管系の解剖生理と心臓血管外科手術
7 月 18 日	依田純子	認知症サポーターになろう！
8 月 29 日	小山尚美	高齢者の言動を科学的に理解しよう
9 月 5 日	清水惠子	自殺予防
9 月 26 日	宗村弥生	子どもへの看護を考えよう
10 月 3 日	前澤美代子	人間のすごい力～免疫力と自然治癒力～
10 月 17 日	坂本玲子	脳の健康とメンタルヘルス
10 月 31 日	中島朱美	高齢者虐待と人権擁護
11 月 7 日	山田光子	リーダーシップとマネジメント
11 月 14 日	山中達也	人の話を聴くだけで「援助」になるのか？
11 月 21 日	高木寛之	地域福祉からまちづくりを考える
12 月 5 日	柳田正明	障害福祉への誘い
12 月 12 日	村木洋子	音楽の効き目
1 月 9 日	渡邊由香	妊娠期の看護～妊婦体験をしてみよう～

（文責：青柳暁子）

（２）甲府城西高等学校・山梨県立大学連携事業（国際政策学部）

マネジメントの父と称される経営学者のドラッガーは、「リーダーが初めに行うべきなのは、自らの組織のミッションを考え抜き、定義することである」と述べる（ミッションとは「事業の定義」とも呼ばれる）。ゆえ、本連携事業においてもそのミッションをまず決定することとし、（とはいえ、高校生にそれを決定させることは荷が重く、かつミッションを適切に決定することは本連携事業の成否に大きく関わるため、本事業の県立大側の実質的な責任者たる伊藤が「考え抜く」形で、）「①大学が有する知見の活用により、②地域貢献という成果を、③超高校級のクオリティで達成すること」と定義した。

①については、本事業を成功へと導くために相応しい「学問的知見」を適宜活用することとし、具体的には、経営学、経済学、政治学、色彩学等の知見を活用した（紙幅の関係上、以下の(1)から(3)を紹介するにとどめる）。

(1) 経済学（先進国による途上国支援においても活用される理論である）において提唱される「テイク・オフ理論」においては、社会の発展は、第一段階（伝統的社会）、第二段階（離陸先行期）、第三段階（離陸＝テイクオフ）、第四段階（成熟化）、第五段階（高度大量消費）という段階を経るところ、発展途上国は第三段階（離陸＝テイクオフ）を自力で行うことが出来ない状態にあるため、先進国が発展途上国を支援する際には、途上国が第三段階に達するまで支援をするべきであるとするものである（第三段階に達することが出来れば、おのずと第四段階、第五段階へと至る）。この理論を、高大連携事業にあてはめると、高校生の主体的取組みに全て委ねるのは適切ではなく、大学教員（及び高校教員）は、第一段階から第三段階に至るまで、高校生に対して必要な情報・ノウハウの提供を行うのが適切であり、またその責任を有するということが分かる。

(2) ドラッガーは、「成果をあげるには手を広げすぎてはならない。一つのことに集中する必要があり、かつ、「イノベーションは、規模が大きいほどよいのではない。逆に小さいほどよい」と述べる。とかく地域貢献とは、市町村全体、都道府県全体、日本全体というふうに、大風呂敷を広げがちであるが、ドラッガーの指摘からするとそれは誤りであることが察知できる。当初は甲府市全体の振興のための取組みを行いたいとの要望があったが、それではドラッガーの指摘に反することになるため、本連携事業においては焦点を絞りに絞り、「生そば『庵』さん（山梨県甲府市朝日３丁目 11−20）のメニューの英語化」に取り組むこととした（高校生にテーマの発見・選択を委ねることは難しいと判断したため、伊藤のほうで選定した。なお庵さんは、かねてから伊藤の行きつけのお蕎麦屋さんである）。

(3) 同じくドラッガーは、「人に成果をあげさせるためには、彼らを問題、費用、敵としてではなく、資源として見なければならない」と述べる。本連携事業において、この視点を活用すると、「城西高校生に成果をあげさせるには、彼らを……資源としてみなければならない」ことになる。高校生が有する資源（単にやる気や熱意といった抽象的なもので

はなく、上述②の地域貢献という成果をあげるために活用できる具体的な才能・資質）とは何であろうかと考えるとき、まだ成長段階・学習段階にある彼ら・彼女らではあるものの、少なくとも中学１年生から「英語」を学んできており一定の能力を有すると考えられるため、この能力（資源）を活用すべきとの結論に至った（ゆえに、(2)で述べた庵さんのメニューの英語化へと話がつながることになる）。あまりに背伸びさせて、高度なことを行おうとすると、高校生の主体性が失われ、かつ大学側の負担も大きくなるため、この高校生が有する能力（資源）を見極め、身の丈にあった取組みを行うことは、非常に大切であると思われる（もし、例えば、庵さんで「独自メニューの開発」に取り組むというテーマを掲げていたとしたら、それを達成するための能力（資源）は高校生にはない（せいぜいこれまで 18 年程度生きてきた経験のようなものしかない）ので、事業は路頭に迷うことになったであろう）。

②については、高校側からの要望として、当初から設定されていたものである。なお、経営学において、管理職が一般社員を率いるに当たって肝要なこととして、「一般の社員の場合、自分では自分の強みに気づいていないこともある。リーダーはそこを気づかせ、達成感を味わわせる責任がある」としている。本連携事業においても、単に自己満足的なものに終始するのではなく、具体的な成果という形で、高校生に「達成感を味わわせる責任」を大学と高校は共同して負っているということがいえる。また、経済学において「ブルー・オーシャン戦略」というものがある。これは、競争が激しい分野（レッドー・オーシャン）においては成果を上げること（勝ち残ること）は困難であるが、自らが先鞭を付けたような競争相手が少ない分野（ブルー・オーシャン）においては、成果を上げることはより容易であるとされている。メニューの英語化は、後者の分野に属するため、高校生においても成果を上げやすい分野であったといえよう（具体的な成果については、後述）。

③について言えば、完成した英語化メニューが実際に店舗において使われるものであるため、一定レベルのクオリティ（専門業者が作成したものと遜色がないこと）が要求されることは、必須であるといえよう。かつ高校生だけで取り組むのではなく、大学とも連携しての取組みである以上、やはり高校生のレベルを超えたクオリティのものを生み出したいところである（そしてそれは以下に述べるとおり十二分に達成された）。食材のアレルギー表示にピクトグラムを用いるように指導したり（主に大学側からの指導）、英訳の添削をしたり（主に高校側からの指導）という段階を経て、①(1)にいう第三段階を達成した後は、高校生に委ねられ、写真の撮影・トリミング、背景の設定、冊子の構成・色使い、キャラクター描画、庵さんの要望の聴取とそれに基づく修正がなされた。結果として、専門業者が作成したものと遜色がない、非常に完成度が高いメニューが完成した。その暁には、マスコミ各社に取材を依頼しようと考えていたが、そうするまでもなく、この英語メニューは庵さんを取材していた地元テレビ局（UTY）の目に留まり（なおこの取材は英語

メニューの作成とは関係なく行われていた)、後日、本事業に携わった高校生全員が地元テレビ局（UTY）の番組に出演することとなり、また新聞（山梨日日新聞）においても紹介されることとなった。もちろん庵さんからも、大きな評価・感謝の言葉を何度も頂戴した。このように第三者からの評価を得たことは、高校生にとって大きな成功体験となったと思われる。こうして本学と城西高校と、そして庵さんとの連携事業の第一年目は、成功裏に終わることになった。

（文責：伊藤智基）

（３）身延高等学校・山梨県立大学連携事業

本学は 2017 年 1 月 24 日、山梨県立甲府城西高等学校及び山梨県立身延高等学校と、相互の教育に係る交流・連携を通じて、高校教育・大学教育の活性化等を図るために、「高大連携事業に関する協定書」を締結した。

これに伴い、2017 年度、身延高等学校と連携事業を実施した。身延高等学校とは前年度まで「双方向型の高大連携による地域資源を活かした授業モデルの構築」に関する共同研究を行ってきた。その成果を踏まえ、2017 年度は前年度に引き続き、QR コードを使った観光マーケティングと動画を使った地域資源のプロモーションを行った。高校主導で行われる活動に対し、概ね月に 1 回、本学の教員が高校を訪問し、活動の評価と指導を行なった。また本学の学生もティーチングアシスタントとして、身延高校の生徒に対し、グーグルアナリティクスを活用したデータ分析の手法などをアドバイスした。QR コードを配したポスターは身延山久遠寺やほったらかし温泉など県内の主要な観光スポットに掲示し、データ収集を行なったほか、身延の代表的なみやげものである「みのぶまんじゅう」を PR する動画を制作し、YouTube 上に公開した。

本学の担当教員は、二戸麻砂彦センター長（全体統括)、兼清慎一（個別指導)、ティーチングアシスタントは、矢野通寿（国際政策学部国際コミュニケーション学科 4 年）である。

なお、2016 年度から 2017 年度にかけて行われた本連携事業は、内閣府地方創生推進室が主催する「地方創生★政策アイデアコンテスト 2017」において関東代表に選抜され、全国大会で入賞にあたる「チームラボ賞」を受賞した。

また「第 7 回おもてなしの山梨県民大会」で「知事表彰」を受けた。

表 6. 活動内容

	日時(時限)	活動内容	活動目的
1	4/19(水) 高校教諭	オリエンテーション ・自己紹介 ・今後の講座内容の概要説明 〔宿題〕 ・３０歳と５０歳の時どんな暮らしをしているか？	自己紹介 講座の概要説明
2	4/27（木） 高校教諭	講義①：身延町、このまま進むとどうなる？ 〔宿題の発表〕 ・３０歳と５０歳の時どんな暮らしをしているか？	本年度の事業案の議論・決定
3	5/17（水） 高校教諭	講義②：昨年までの取り組みを報告 〔宿題〕 ・今年度の事業案を考える①	
4	6/21（水）	講義③：今年度の事業案を考える②	
5	7/19（水）	県立大学での発表会 ・今年度の事業案を考える③ ・フィールドワークの準備と日程の確認と報告	
6	８月中	フィールドワークなど	
7	9/20(水)	講義④：各プロジェクト進捗状況報告会①	プロジェクトの進行
8	10/1（水）	講義⑤：各プロジェクト進捗状況報告会②	
9	12/2（水）	講義⑥：各プロジェクト進捗状況報告会③	
10	1/16（火）	講義⑦：各プロジェクト進捗状況報告会④・まとめ ・評価	
11	3／27（火） 3／28（水）	・県立大学での研究報告会 ・身延町への活動報告会	まとめ 発表

（文責：兼清慎一）

４．教員の地域貢献活動への支援

（１）教員への支援メニューの策定・周知

前年度に続き、教員が自主的に行う地域貢献活動を促進するために、教員を対象とした支援メニューを周知、実施した。周知したメニューは以下の通りである。

(a)センター主催の「地域交流・貢献活動」としての採択・実施

本学教員が主体的に企画・実施する県内特定地域での交流事業を対象とする。内容に応じて、旅費、消耗品などを支援する。

(b) センター「支援事業」の認定・支援

センターの「支援事業」として認定し、報道機関への情報提供、センターのウェブサイトを通じた広報など、可能な範囲で支援する。

(c)センター「後援」等の名義の使用

名義使用により、センターがその趣旨等に賛同している旨の対外的表示ができる。
教員が主体的に関与する事業のほか、学外団体から協力を依頼された事業で、本学の地域貢献として賛同・応援の意志表明をするにふさわしいものを対象とする。

(d)学生ボランティアの募集協力

「学生活動支援室」を平成19年度に開設し学生による地域貢献活動の推進を行っている。この「支援室」を通じ、本学での学生ボランティア参加者募集等に協力することができる。

（e）その他

上記以外の支援メニューについても、今後検討していく。具体的なご要望などがあれば相談を受け付ける。

（文責：青柳暁子）

５．学生による地域貢献活動への支援

（１）「学生優秀地域プロジェクト」の認定・支援

「山梨県立大学地域研究交流センター『学生優秀地域プロジェクト』認定・支援制度」を平成20年6月に定めた。これは本学学生の又は学生団体が地域において実施する事業で、地域および本学に対してすぐれた貢献をしたものを認定し、本学学生による地域課題解決のための継続的な活動を推進することを目的としてものである。認定されたプロジェクトは、本学ウェブサイトに広報するほか、センターが可能な支援を行う。

実施要綱に基づき、平成 29 年度認定プロジェクトの選考を以下のプロセスで実施した。

（a）教職員からの推薦

実施要綱では推薦の資格を有するのは本学教職員となっている。平成 29 年 12 月に教職員からの推薦を募った。その結果、3 件のプロジェクトが推薦された。

表７　平成 29 年度　学生優秀プロジェクト　認定一覧

プロジェクト名	実施主体	推薦者
グローカルキッチン	大沢華 学生有志	国際政策学部 二戸麻砂彦
福祉音楽キャラバン	鯨岡祥太 高橋駿介	人間福祉学部 青柳暁子
チャレンジボランティアフォーラム	甲斐縁隊	人間福祉学部 青柳暁子

(b)選考委員会による選考

センター長が組織した選考委員会において選考を行った。選考委員会のメンバーは、佐藤理事、二戸センター長、青柳准教授、伊藤准教授、事務局から中島リーダーの 5 名であった。

平成 29 年 1 月 9 日に選考委員会が開かれ、協議の結果 3 件のプロジェクトの認定が決定された。

(c)認定

認定式を平成 30 年 1 月 31 日　12：20～12：50 に飯田キャンパス A 館 2 階大会議室にて開催した。

（２）「学生活動支援室」の活動

平成 19 年度より設置している「学生活動支援室」により学内に設置した掲示板を通じて、大学・教員に寄せられる学生ボランティア募集などの情報の学生への情報発信を行った。

（文責：青柳暁子）

６．大学周辺自治会との連携

（１）地域自治会との懇談会

平成 29 年 7 月 19 日（水）午前 10 時～飯田キャンパス　A館 6 階　サテライト教室にて穴切地区・池田地区自治会連合会との懇談会を開催した。

穴切地区からは 10 名、池田地区からは 5 名の自治会長、大学からは学長、理事、センター長など 8 名が出席した。

懇談会では「自治会行事等への学生の参加状況について」「地域研究交流センターの今年度事業について（自治会からの依頼等によりセンター教員等が参加している事業)」の 2 点

について報告や依頼が行われた。

また大学からは 9 月に池田キャンパスで、がん制圧とがん患者支援のためのチャリティー活動で、がんと闘うために夜通し歩く「リレー・フォー・ライフ」を開催についての説明があった。自治会からは学生に穴切地区の消防団への加入呼びかけについての依頼と学生へゴミ出しのルール周知の依頼があった。

（文責：青柳暁子）

（２）鶴巻台西自治会住民と学生の交流

山梨県立大がサークル MOTTAINAI は、平成 24 年 6 月より、県立大学飯田キャンパス近隣（グランド南側）の鶴巻台西自治会の高齢者との交流事業を続けている。

平成 29 年は下記の活動を行った。

6/24　　地域交流(手巻き寿司)

3/1　　地域交流(ほうとう作り)

７．池田地区総合防災訓練への参加・協力

本活動において大学は協力・指導団体として、池田地区連合自治会主催の企画会議から参加し、救護訓練を担当している。

本活動は今年度で 7 回目となり、本学のセンター事業において、地域交流・支援の大きな位置づけとなる活動である。本学は協力・指導団体として、池田地区連合自治会主催の総合防災訓練の企画会議から参加し、救護訓練を担当することとなった。

本学看護学部学生及び教員に対して、ポスターによるボランティアとしての参加を募った。ボランティアとして参加する学生及び教員へ事前の説明を行ったり、4 会場毎の自治会代表者とボランティアとして参加する教員が綿密な打ち合わせを行ったりした。

当日の救護訓練の内容は以下のとおりである。

（1）日時：平成 29 年 8 月 27 日（日）8:30～11:30
（2）場所：池田小学校、甲府西高等学校、甲府城西高等学校、西部市民センターの 4 か所
（3）協力者：本学看護学部教員及び学生
【教員 7 名】小山尚美、茅野久美、松田恵理、小尾栄子、須田由紀、野澤由美、渡邊輝美
【学生 4 名】4 年生：伊井彩美、剣持理惠、萩原亜也加、増田綾美

（4）内容
実施した内容について、２か所の会場では災害時に活用できる応急処置の知識と技術であり、他の２か所では心肺蘇生法、AED の使用法等であった。各会場に学生と教員が分かれ活動を行った。
池田地区総合防災訓練には、536 名の地域住民が参加した。学生と教員は、4 か所の救護場所に分かれ、用意したパンフレット（「おぼえておこう災害時の応急処置」）を住民に配付し、それに基づいて応急処置や救護の知識と技術等について指導した。身近にあるタオルやストッキング、段ボール等を活用した止血や創部の固定、レジ袋を代用した三角布の作成等に住民の関心が高かった。また、心肺蘇生法や AED の使用方法について、住民は積極的に参加し満足していた。
住民の感想として、「昨年やったことでも忘れていることも多い。毎年この機会に練習することで, 思い出すことができる」「最近はまさかと思う災害が多いので、日頃の備えは大事」「自分たちの予算で AED の設置を増やす検討をしたい」「自分たちも積極的に実技をすることができて良かった」等の意見があった。
池田地区総合防災訓練において、本学教員及び学生による応急処置の訓練が定着しているようである。
また、今年度から本学の授業「災害支援」の一環として、池田及び穴切地区の防災訓練に 101 名の学生が参加した。学生は、訓練に参加し住民と交流することを通して「住民の一人であることを認識した」「日頃から訓練することが大切」ということを学んだ。

（文責：渡邊輝美）

８.「池田地区健康祭り」への参加・協力

2018 年 3 月 4 日（日）に甲府市西部市民センターで開催された「池田地区健康まつり」に、教員と看護学部の学生が参加・協力した。池田地区連合会からの依頼を受け、8 年連続での参加・協力となった。住民 96 人の血圧・体組成・足指力・動作のすばやさ（リアクション BG）・血管年齢を測定した。タッチパネルによる認知機能テストは希望者のみの実施とした。教員に見守られながら学生 27 人がこれらの測定を担った。学生の人数が多かったため交代でまつりの他の催しを見学するようにしたり、食生活改善推進員の料理した豚汁を味わうようにしたりした。また、学生は、準備や打合せも意欲的に参加し、測定の看護技術のみならず行事の企画運営についても学びを深めた。

また、本学の教員及び学生、甲府市の地区担当保健師、西地域包括支援センターの保健師及び看護師と連携して健康相談コーナーを行った。地域住民の測定結果をもとに、健康に関する相談に応じたり、パンフレットを用いて転倒予防体操や生活習慣病予防について指導したりした。

以上のことを行いながら、地域住民、学生および教員、甲府市の地区担当保健師、西地域包括支援センターの保健師及び看護師が交流を深めた。

今年も地域の方々は学生や教員の参加を楽しみにしており、測定結果を真剣に見たり、相談したりしていた。学生にとっては、いろいろな方と話をしながら測定することによって、個々に応じた測定の技術を向上させたり、地域で健康に暮らしている方から直接お話を伺うことによって住民のニーズや生活実態を知ったり、保健師らから相談の仕方について学んだりする貴重な機会であった。また、参加住民の中には、大学での講義に協力してくださった経験者も多いため、学生も住民も教員も再会できたことを喜び、大学と地域の繋がりがさらに深まったことを確認できた。

看護学部が地域住民にとって身近な存在として受け入れられていることに感謝し、今後もさらに地域との交流・協働ができるようにしていきたいと考える。

今回参加した教員と学生は、以下の 35 人である。

看護学部教員（8 人）：小山尚美・茅野久美・岡千尋・村松照美・小尾栄子・須田由紀・小池英美・渡邊輝美

看護学部学生（27 人）：３年次生　小俣舞・小澤詩歩・柄澤拓望・小松理紗子・山本葉月・菅谷実和・福田真由・小俣舞華・知見桃花・渋江志織・小野可奈子・野田翼・若月麻未・勝俣美空・小林舞・名取春奈・西牧礼奈・森本夏美・吉田莉果・高野恵利那・杉山祐季・神澤彩伽・杉山ありさ・平井華穂・池上芽衣

１年次生　山本里咲・渡部紗希

写真１　参加者の血圧測定中　写真の奥は受付

写真２　動作のすばやさを測定中

写真３　健康相談中

（文責：渡邊輝美）

９．穴切地区防災訓練への参加・協力

穴切地区総合防災訓練への協力について，穴切地区連合自治会より依頼があった。本件に関しては今年度で２回目の依頼となる。防災訓練の応急処置の講師を行った。

日時：平成 29 年 8 月 27 日（日）8:00～11:00
場所：西中学校、穴切小学校跡
協力者：教員：青柳暁子
　　学生：福祉コミュニティ学科４年　草間春佳、鯨岡祥太

内容：救護訓練
・ 救急訓練用モデルを使用した胸骨圧迫訓練
・AED 訓練
実際の避難を想定した大規模な防災訓練が実施された。本学教員と学生は時間をずらして２か所の避難所で救急訓練用モデルを使用した胸骨圧迫と AED 訓練の実践指導を行った。

まず、教員が胸骨圧迫の方法を説明した後、教員、学生２名が３カ所に分かれ、救急訓練用モデルを使用して胸骨圧迫訓練を行った。救急訓練用モデルは適切な場所に適切な圧を加えるとランプがつく仕組みになっており、住民は一生懸命、ランプを見ながら訓練を行った。また様々な質問を熱心にされ、訓練に対する真剣さが伺えた。

AED 訓練は、訓練用 AED を使用して行った。住民は積極的に参加し、救急訓練用モデルにパッドを貼り、AED の指示に従って電気ショックを作動させていた。

今回は看護学部の学生が授業の一環として住民の立場で参加しており、看護学部の学生も熱心に訓練を行っていた。
学生も教員も地域の住民として防災について考える良い機会となった。

１０.「第 20 回山梨チャリティーラン 2017」へのボランティア参加

今年も、障害児のサマーキャンプの資金集めのために 2017 年 6 月 10 日に開催された、「第 20 回山梨チャリティーラン 2017」で、本学学生 25 名がボランティアとして参加した。

このチャリティーマラソンは、山梨YMCA・甲府ワイズメンズクラブ・山梨日日新聞・山梨放送などが実施している、伝統ある県内最大のチャリティーマラソンである。山梨 YMCA からの要請で、同大会への資金援助は可能だが、どうしてもランナーが集まらない企業のゼッケンを付け、代走者として参加した。本学から派遣した学生数は、1 団体から派遣したボランティア数は、他大学と比較し群を抜いて多く、また多くのベトナム人留学生が含まれており、主催団体から高い評価を受けた。

（文責：吉田均）

１１．年報の発行

この『年報』は、地域研究交流センターの事業実績を年度ごとにまとめたもので、地域研究交流センターの活動内容を紹介する際の資料として、あるいは自己点検評価等の資料として活用されている。2009 年度までは年度末に発行してきたが、2010 年度からは次年度の 5 月に発行することとした。今年度も、計画通り『2016 年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を 2017 年 5 月 31 日付けで発行することができた。

１２．ニューズレター「tobira」の発行

地域研究交流センターニューズレター「tobira」は、本学と地域を結ぶ機関紙であり、本学教員あるいは学生による、地域における研究活動、地域貢献活動、地域住民・関係機関・自治体等との連携事業を広く県内外に情報発信する役割を持っている。これまでは、ほぼ以下の紙面構成で発行してきた。

＊「私の研究室」：本学教員の研究活動・成果の紹介
＊「地域とつながる」：本学の地域連携・地域貢献事業の紹介
＊「私たちの一歩!」：学生による地域貢献活動の紹介
＊「講座・イベントのお知らせ」：講座・イベント等の告知

2010 年度からは(第 11 号以降)、「tobira」という誌名のもと、デザインと内容を一新し、取材・執筆・編集の多くの部分を学外編集者に委託することで内容の充実を図った。2011 年度からは(第 13 号以降)年 3 回発行してきたが、2016 年度から年 2 回の発行となった。大学の学年暦に合わせて、前期および後期の初めに発行することができた(第 30、31 号)。

発行部数は各回 4000 部で、県関係、市町村、文化施設、県内大学、実習先(病院・福祉機関・幼稚園・保育所等)、企業、県内非営利活動法人、県内高校、等である。

また、ウェブサイトに本機関紙をのせ、多くの人々に発信した。

各号の概要は以下の通りである。

（１）ニューズレター「tobira」第 30 号（2017 年 5 月 31 日発行）

＊「私の研究室」高岸弘美講師（看護学部）:「人生は出会いでつながる」と題して、慢性疾患を持ちながら生活している人々への看護に関する研究について紹介していただいた。

＊「地域とつながる」: 高野牧子教授（人間福祉学部）、古屋祥子准教授（人間福祉学部）:「リユース・アートで開く想像力のトビラ」と題して、山梨県内の企業から提供された端材をアートにする取り組みについて紹介していただいた。

＊「私たちの一歩!」: 小木曽瑠美（人間福祉学部学生）:「自然とふれあう子ども達その笑顔と続けることの意味」と題して、原発事故の影響で外遊びが十分にできない福島の子ども達を山梨に招いてのキャンプについて紹介していただいた。

＊「講座・イベントのお知らせ」: 6 月以降に開催予定の講座・イベント等の告知を行った。

（２）ニューズレター「tobira」第 29 号(2017 年 11 月 6 日発行)

＊「私の研究室」伊藤智基准教授(国際政策部) :「「直感」ではなく「法」に依拠して」と題して、「行政法」の研究者としての道のりを紹介していただいた。

＊「地域とつながる」長坂香織准教授（看護学部）:「『外国につながりのある子どもたちのための日本語作文コンテスト』の取り組み」と題して、山梨県で暮らす、両親あるいはそのいずれかが外国籍の子どもたちの日本語能力の向上と、外国籍の親に日本の教育の現状を知ってもらう機会とする本取り組みについて紹介していただいた。

＊「私たちの一歩!」渕上真有（人間福祉学部学生）:「ボランティアを通じて人と人のつながりを」と題して、2017 年に結成 15 周年を迎え、在籍者 113 人の「甲斐縁隊」の取り組みについて紹介していただいた。

＊「講座・イベントのお知らせ」: 10 月以降に開催予定の講座・イベント等の告知を行った。

１３．ウェブサイトでの情報発信

本学のウェブサイト内に、地域研究交流センターのサイトを置き、センターの概要、生涯学習の案内、地域連携・支援の取り組み、地域研究、刊行物(年報・報告書・ニューズレター等)、活動記録等、各種の情報発信を行っている。特に、生涯学習部門が実施する講座・研修等のイベントに関する情報は、随時タイムリーな情報発信となっている。また、センターが中心となって行った取り組み(講座・イベント・学生優秀地域プロジェクト等)を、そのつど「活動記録」として情報発信している。

（文責：渡邊輝美）

生 涯 学 習 部 門

１．部門事業の概要

（１）地域研究交流センター主催事業

地域の方々を対象に大学の教育・研究成果発表、及び県民の知的関心に応えるための講演会を企画・開催した。

①　観光講座　　②　秋季総合講座

（２）県民コミュニティーカレッジ事業

「大学コンソーシアムやまなし」との提携で、地域ベース講座として大学の研究成果を分かりやすく伝える講演会の企画・運営・実施をした。

①　地域ベース講座

（３）地域連携講座事業

地方自治体その他の団体等の委託を受けて、本学教員が各種講座を企画・実施した。

①　日本語・日本文化講座

②　やまなし市民後見人養成基礎講座

③　山梨創生講座

２．部門事業の実績と課題について

本年度は３区分６種類の事業が企画実施された。複数回シリーズで実施される企画が多く固定参加状況も例年通りであった。参加アンケートによると概ね良い評価を得ている。それぞれの講座を担当する講師をはじめ、スタッフとして企画を支えた生涯学習部門委員および共催する地域の団体や自治体の尽力に対して謝意を表したい。

【生涯学習部門の個別事業】

１．地域研究交流センター主催事業

（１）観光講座

①　テーマ:「文化と自然で読み解く山梨」

②　趣旨:豊かで多様な自然を有する山梨には、ユニークな自然の仕組みや、その大地を土台とした文化的景観が各地に認められます。これら大地の成り立ちを知り、さらにそこに生活の基盤を据えた人々の営みを歴史科学的に探ることから、山梨の文化や自然に纏わる価値観が再認識されることと考え、この度の講演会を企画しました。

③　対象:一般県民

④　講師：近藤暁子（山梨県立博物館）・石川 博（駿台甲府高校・小畑茂雄（山梨県立博物館）・前田宜包（市立甲府病院）・輿水達司（山梨県立大学）・正木季洋（山梨県教育委員会）・松田香代子（愛知大学 綜合郷土研究所）・吉澤一家（山梨県衛生環境研究所）・稲垣自由（大月市郷土資料館）・新津 健（山梨県考古学協会）

⑤　日時と参加者数：

第一回：平成 29 年 7 月 23 日（午後1時～午後4時半）［参加者 63 名（当日受付 15 名）］

1-1：彫刻に表現された富士山の信仰・・・・・・・・・・近藤暁子（山梨県立博物館）

1-2：近世の文学と挿絵から富士山を読み解く・・・・・・・・石川 博（駿台甲府高校）

第二回：平成 29 年 8 月 27 日（午後1時～午後4時半）［参加者 49 名（当日受付 10 名）］

2-1：忘れてはならない度重なる水害～山と水と共に生きる～小畑茂雄（山梨県立博物館）

2-2：医療分野から災害対策のメッセージ・・・・・・・・・前田宜包（市立甲府病院）

第三回：平成 29 年 9 月 3 日（午後　1時～午後4時半）［参加者 74 名（当日受付 10 名）］

3-1：甲府盆地の温泉と地下構造・・・・・・・・・・・・・輿水達司（山梨県立大学）

3-2：山梨県庁内で発掘された温泉関連遺構・・・・・・正木季洋（山梨県教育委員会）

第四回：平成 29 年 9 月　10 日（午　後1時～午後4時半）［参加者 36 名（当日受付 2 名）］

4-1：富士五湖をめぐる暮らしと信仰・・・・・松田香代子（愛知大学 綜合郷土研究所）

4-2：富士五湖の水生植物の世界・・・・・・・・・・吉澤一家（山梨県衛生環境研究所）

第五回：平成 29 年 10 月 15 日（午後1時～午後4時半）［参加者 53（当日受付 8 名）］

5-1：奇橋猿橋と岩殿山・・・・・・・・・・・・・・・・稲垣自由（大月市郷土資料館）

5-2：甲府盆地：甲州道中沿いの歴史と景観・・・・・・・新津 健（山梨県考古学協会）

⑥　場所：山梨県立大学飯田キャンパス講堂

⑦　実施状況：初回の7月 23 日から 10 月 15 日まで全 5 回を実施しました。5 回の講演会には、延べ 274 名の参加を数え、平均で 55 名になりました。これらの参加状況をみると、多くは一般県民ですが、この中には県外からの常連の方や、高校生も交じっていました。しかも、特に動員を促すことなく概して多くの参加があった背景には、このシリーズで実施してきた「富士山の世界遺産講座」や「南アルプス講座」の場合同様に、科学的に価値の高い自然・文化が我々の身近にあり、これらを題材に取り入れたことで、強い興味・関心を抱かせたのかも知れません。

⑧　参加者の感想：

＊「観光」をその自然や歴史から考えるということに、とても興味があります。/＊この講座を通して興味深く伺い、山梨の観光にもっと生かせないかと思った。/＊山梨に生まれ、住んでいながら、訪れたことのない地がたくさんあります。むしろその方が多いくらいに。今回の講座を5回通して聴講し、ここで学んだことをふまえて各地を訪れてみたいと思います。/＊富士山信仰と彫刻のお話、女神ということで興味深くお話うかがいました。

＊富士山をいろいろな絵から読み解き、川柳と絵を楽しく見られました。ありがとうございました。/＊富士山が想像、イメージで描かれていることが多い、ということに驚きました。伝承や人々の思いを読み解くこともおもしろそうです。/＊自然災害、医療分野、ともに深く重い講義となりました。山梨に現在生活していて直接被災者になってはいないので、なんとなく他人事でしたので、心にガツーンときました。駐車場が無料なので助かります。＊山梨の災害の歴史を聞けてとても勉強になりました。私も山梨は山のおかげで台風が来ない、災害の少ない地域だと思っていました。もっとたくさんの人に知ってもらいたいです。DMATの話もよくわかってよかった/＊遺構の保存の考え方について、丁寧にお答えくださっていたのがよかったです。/＊甲府盆地の温泉、活断層については新しい知識でした。知らなかったことがわかってよかったです。/＊災害リスクの大きいところは、逆に恵みも多くもたらしてくれるわけで、自然を侮ることなく、恵みに感謝しつつ生きていきたいものです。/＊お城の中の温泉は、全国的にも初ということなので、貴重なものだと思いました。/＊民俗的な話に興味があるので楽しかったです。湖のことも新たな視点で、大変勉強になりました。/＊水生植物に関しては、初めて知ったので有意義だった。/＊山梨の歴史のわかる街道を教えてくださりありがとうございました。/＊お話を聞いて一度現地を見たいと強く感じました。ありがとうございました。/＊外に出て現地での説明もあると、より理解できると思うので、企画があれば参加したいと思います。/＊座学と現地見学を合わせたもの（コンソーシアムとは別に）を、企画してほしい。/＊有料の講座もあってよいと思います。ありがとうございました。/＊県立大の観光講座は、資料および講師のレベルが高く、非常に魅力のある内容で毎年参加させていただき感謝しています。今後も続けてください。＊座学の講演のみならず、年間を通じて見学できるコースをつくり、ウォークしながら自然や歴史・文化を訪ねる企画をしたらどうかと思います。＊これからの生活に役立つ資料、お話、ありがとうございました。/＊富士五湖の湖底堆積物から地球のこと、太陽（系）との関係など、スケールのおおきな話をワクワクしながら聴きました。冬期開催もあれば嬉しい。など。

最後に、今回の講演内容も報告書として本年度中に完成予定で作業を進め、同時に地域研究交流センターホームページには、このPDF版をアップする計画です。今回の観光講座につき、多くの県民がこの企画に関心を持たれ足を運んで頂いた経緯から、この企画が県内観光推進に貢献になれば、と願って実施状況の報告とします。

（文責 ： 輿水達司）

（２）秋季講座

① テーマ 「よりよく学び 生きるために」

② 日時 平成 29 年 9 月 16 日（土）

③ 場所 山梨県立大学 飯田キャンパス A 館 6 階 サテライト教室

④ 参加者 36 名

⑤ 人はいくつになっても、学び続けることで成長し、学び始めるのに遅すぎることはありません。この機会に山梨県立大学を訪れてみませんか。

⑥ 内容

（ア） これって常識？それとも非常識？

講師: 萩原 孝恵 （山梨県立大学国際政策学部国際コミュニケーション学科准教授）

「異文化コミュニケーション」は、実は、身近な問題として捉えることができます。あなたにとっての「常識」は、他の人にとっての「非常識」かもしれません。異文化を知ると、異文化コミュニケーションは楽しくなります。本講座では、「常識 vs. 非常識」という観点から、異文化コミュニケーションについて考えました。

（イ） 生きる意味について ～患者さんから教わったこと～

講師: 新藤 雄二 （山梨県立大学看護学部 助教）

人生には、病気や別れなど、逃れられない困難な状況に直面し、時には生きる意味を見失うこともある。しかし人は、どんな困難な状況でも「生き生きと人生を送ることのできる存在」でもあると確信する。それは、看護師としてかかわってきた多くの患者さんから教わってきたことである。

人は、どんな困難な常用でも失望せず、豊かな人生を送るために、どのように生きる意味を見出していけばよいのか。講座参加者の皆さんと一緒に考える時間にしました。

（ウ） 緑・植物の力で地域を元気に笑顔に！

講師: 前川 有希子 （山梨県立大学人間福祉学部福祉コミュニティ学科 講師）

五味 武彦 （山梨県立大学 非常勤講師）

前半は、人間力や福祉力の向上のために、草花や植物を育てることを実践している山梨県内の 2 つの事業所の事例を紹介し、講師の取り組んでいる認知症の方との苔玉つくりの経験から、介護現場におけるグリーンパワーの力について報告しました。

後半は、苔玉づくりワークショップ、実際に苔玉を作りながら、ミドリを育てることが福祉活動の一つであることを実感してもらいました。

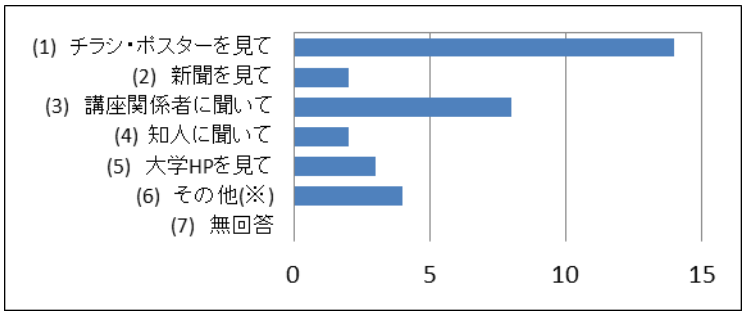
⑦　アンケート結果（回収数 31/参加者 36 名、回収率 86.1%）の概要

1. これまで山梨県立大学の講座に参加したことがありますか。

	人数	%
(1)　今回がはじめて	18	58.1
(2)　参加したことがある(※)	12	38.7
(3)　無回答	1	3.2

2. この講座をどこで知りましたか。

単位：人



3. 講座の内容を理解できましたか。

【1】異文化コミュニケーション［萩原孝恵准教授］

	人数	%
(1)　よく理解できた	17	54.8
(2)　理解できた	8	25.8
(3)　どちらとも言えない	1	3.2
(4)　あまりわからなかった	0	0.0
(5)　わからなかった	0	0.0
(6)　無回答	5	16.1

【2】生きる意味について考える［新藤裕治助教］

	人数	%
(1)　よく理解できた	13	41.9
(2)　理解できた	12	38.7
(3)　どちらとも言えない	2	6.5
(4)　あまりわからなかった	0	0.0
(5)　わからなかった	0	0.0
(6)　無回答	4	12.9

【3】緑・植物の力で地域を元気に笑顔に！[前川有希子講師・五味武彦講師]

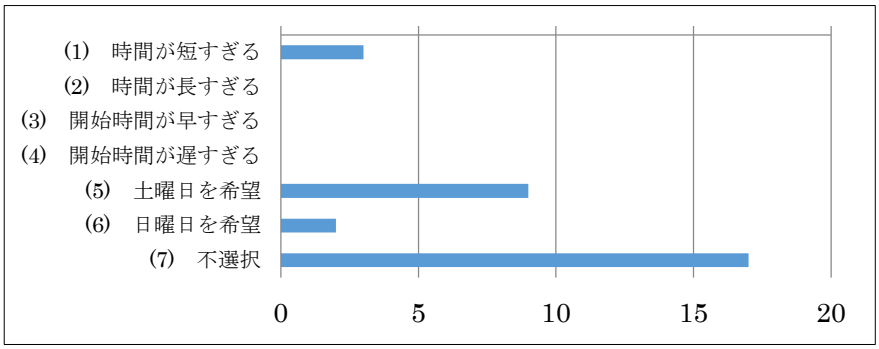
	人数	%
(1) よく理解できた	23	74.2
(2) 理解できた	3	9.7
(3) どちらとも言えない	1	3.2
(4) あまりわからなかった	0	0.0
(5) わからなかった	0	0.0
(6) 無回答	4	12.9

4. 全体の満足度を教えてください。

	人数	%
(1) 大変満足	20	64.5
(2) 満足	9	29.0
(3) どちらとも言えない	0	0.0
(4) 少し不満	0	0.0
(5) 不満	0	0.0
(6) 無回答	2	6.5

5. 講座の時間帯等について

単位:人



6. 希望する公開講座のテーマ

・ぜひ植物に関する講座を続けてお願いします。とても楽しかったです。ありがとうございました。/・苔玉第2弾/・苔玉作り楽しかったです。ありがとうございました。/・食育、育児等、実践できるものができるとうれしいですね。/・異文化コミュニケーション:これまで私が経験して常識だと思っていたことが他国(タイ)では常識ではなく、もっと知る機会が欲しいです。/・デザイン(いろいろな側面から「デザイン」することを考える)　/・またこのような交流を作っていただきたいです。/・このよ

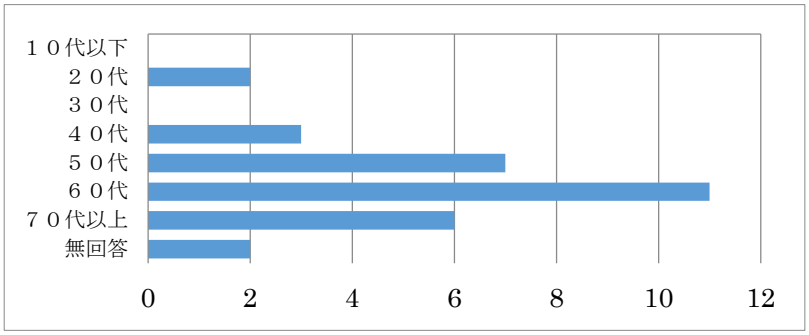
うな実践できる講座をぜひお願いしたいです。 ・ワークショップ、とてもよかったです。 /・苔玉作りのように体験を含んだ講座であると、他の参加者の方との会話を楽しむこともでき、交流がはかれると思いました。//

7. その他、ご意見・ご感想を自由にお書きください。

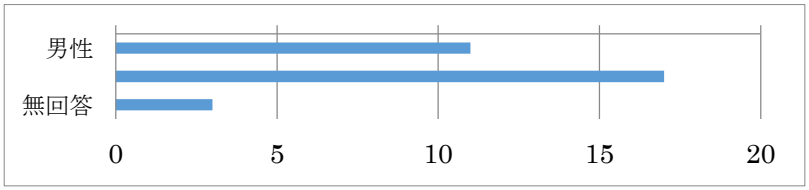
・楽しく参加させていただきました。ありがとうございました。/・苔玉、楽しく作ることができました。ただし費用が掛かる苔玉は、有料でもよかったのではないかと思います。/・それぞれの講演で発見と驚きがあり、とても楽しく有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。/・すてきなお話や苔玉作りを体験させていただき、ありがとうございました。/・とても楽しい時間をありがとうございました。先生方のお人柄ゆえによりいっそうわかりやすく楽しい講座だったのだと思います。ありがとうございました。またぜひお願いいたします。/・すべての講座、どれも充実していて、楽しく勉強になりました。ありがとうございました。 /・上手にできました。説明がわかりやすかったです。/・チラシの裏面を見て、ひとつの講座しか受けられないと思った。わかりにくいです。それぞれの講座の時間を知りたかった。/・本日は途中参加にもかかわらず、ご丁寧に対応していただき、ありがとうございました。とても楽しい講座でした。/・どの講義も考えさせられ、学ぶことができました。苔玉も名前をつけて大切にしたいと思いました。貴重な経験をありがとうございました。/・生きる意味について、大げさかもしれませんが、人生観が変わった部分がありました。苔玉作り、大変楽しく作らせていただきました。ありがとうございました。ちょうどよい時間割り振りでした。/・一度に分野の異なる講座を受講でき、大変楽しく過ごせました。やはりこのような機会があると、考えるべきことや反省すべきことがわかりました。ありがとうございました。また参加したいと思います。/・楽しく過ごしました。ありがとうございました。/・大変楽しい時間を過ごすことができました。/・楽しい意義深い内容のものばかりでした。ありがとうございました。/・講義を聴くだけでなく、ワークショップがあり、大変楽しく笑顔で、集中してできました。ただ、よいお話でメモをしようとがんばったのですが、映像画面が消えるのが早く、メモしきれずに残念でした。/・大変勉強になりました。ありがとうございました。/・初めて参加しましたが、参考になりました。再度聴講したいと思います。/・萩原先生、「大事なのは英語ではなく、日本語」目から鱗でした。それなら、自分でも何か力になれるかもしれないと、勇気をもらいました。先生の日本語や話し方の美しさにも感動しました。新藤先生、難しいテーマでしたが、具体的な事例をわかりやすく紹介していただき、考えるきっかけ、ヒントをいただきました。また看護師という仕事の大変さ、偉大さを改めて知りました。前川先生、五味先生、おふたりが作る、軽妙であたたかい空気に、笑顔になれました。廊下のお花もすばらしい傑作です。娘さんのためにお庭に植物を絶やさなかったというお話、とても印象的でした。学生さんにもたくさん助けていただきました。ありがとうございました。//

◆プロフィール

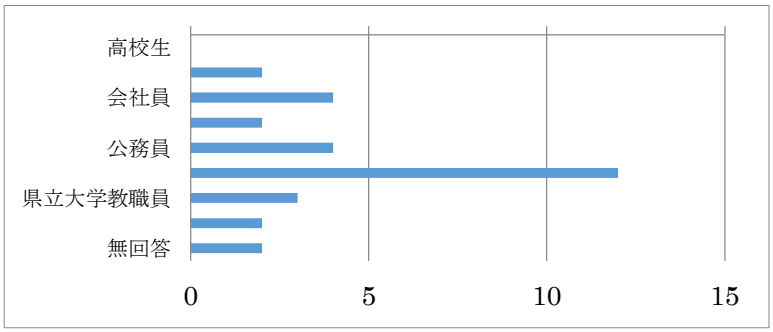
＜年齢＞（単位:人）



＜性別＞（単位:人）



＜職業･所属＞（単位:人）



（文責 ： 黒羽雅子）

２．県民コミュニティーカレッジ事業

（１）地域ベース講座（全４回）

① テーマ： リスクを知ってハッピーライフ　－地域と世界の隣人の暮らしから学ぶこと―

② 趣旨:制度も文化も異なる国々にたくましく生きる日飛び地の暮らしぶりを知り、日本の地域に生きる私たちが自分の暮らしを見直したり、再評価したり、あるいはこれからの地域づくりの方向性を探ることを目的に、楽しみながら学び、日々の健やかで幸せな生活のための役に立ててもらう。

③ 講座概要

第 1 回 ベトナムの豊かな暮らしと観光 ―コミュニティのきずなが生み出す元気と仕事
講師 山梨県立大学国際政策学部国際コミュニケーション学科講師 安藤 勝洋
日時 平成 29 年 10 月 7 日（土） 14:00～15:30
場所 山梨県立大学飯田キャンパス A 館 6 階 サテライト教室

第 2 回 救命救急の現場から
講師 山梨県立大学看護学部助教 高取 充祥
日時 平成 29 年 10 月 14 日（土） 14:00～15:30
場所 山梨県立大学飯田キャンパス A 館 6 階 サテライト教室

第 3 回 イギリスの医療制度と政治 －変容する福祉国家－
講師 山梨県立大学人間福祉学部日時 平成 29 年 10 月 21 日（土） 14:00～15:30
場所 山梨県立大学飯田キャンパス A 館 6 階 サテライト教室コミュニティ学科准教授
石垣 千秋
日時 平成 29 年 10 月 21 日（土） 14:00～15:30
場所 山梨県立大学飯田キャンパス A 館 6 階 サテライト教室

第 4 回 気になる子供と家族の生活
講師 山梨県立大学人間福祉学部人間形成学科准教授 里見 達也
日時 平成 29 年 10 月 28 日（土） 14:00～15:30
場所 山梨県立大学飯田キャンパス A 館 6 階 サテライト教室

（文責 ： 黒羽雅子）

３．地域連携講座事業

（１）日本語・日本文化講座

①目的：甲府市内在住外国人のためのレベル別日本語教室
②日時：平成 29 年 5 月～平成 30 年 1 月までの毎週日曜（13～15 時）
③場所：山梨県立大学飯田キャンパス　サテライト教室、研修室
④内容：会話 1、会話 2、会話 3、文字クラス、文化講座「雅楽」「書道」
⑤主催：山梨県立大学、甲府市
⑥実施状況
参加者（延べ）：151 名
会話 1…8 名　会話 2…6 名　会話 3…88 名　文字クラス…21 名
日本文化講座「雅楽」…8 名　「書道」…20 名

参加者国籍：15 か国　＜台湾 42、ペルー29、ボリビア 13、アメリカ 11、中国 10、
ベトナム 8、ブラジル 7、インドネシア 5、韓国 4、ルーマニア 3、
フィリピン 3、タイ 2、インド 2、イラン 1、日本 11＞

（文責：萩原孝恵）

（２）山梨創生学講座

やまなしの創生を語る（平成 29 年度新企画）

① テーマおよび開催日：「やまなしの創生」（平成29年10月12日～19日）

② 趣旨：山梨県における地域の文化、経済、自然の観点から、やまなしの良さを再発見すると共に、人口減少のなかにある山梨の活性化を図るために必要な、地域に対する理解を深めることをテーマにしました。具体的には、地域の成り立ちからはじまり、地域経済・産業を中心に、歴史・文化・伝統などにわたって学び、地域の魅力の再発見・再認識などをそれぞれの立場から語ってもらいました。

③ 対象：一般県民

④ 開催時間：午後6時～午後8時50分

⑤ 場所：山梨県防災新館

⑥ 主催：山梨県立大学・山梨経済同友会・山梨県生涯学習推進センター

⑦ 講演題目：日時と参加者数

10月12日（木）、参加者48名

「そうだったのか！山梨～意外と知られていない山梨の魅力と可能性を探る～」

講師：岡本新一（山梨中銀経営コンサルティング　経済調査部長）

「山梨の大地形成から見直されるユニークな自然観・価値観」

講師：輿水達司（山梨県立大学　特任教授）

10月13日（金）：参加者42名

「やまなしの魅力発信とその後～移住相談の現場から～」

講師：倉田貴根（やまなし暮らし支援センター　移住専門相談員）

「山梨を取り巻くマクロ環境～世界の今・日本の今・山梨の今～」

講師：竹内 淳（日本銀行　甲府支店長）

10月17日（火）：参加者36名

「山梨で企業を経営する」

講師：長澤重俊（株式会社はくばく　代表取締役社長）

「人口減少社会～地域活力の維持を目指して～」

講師：村田俊也（公益財団法人山梨総合研究所　専務理事）

10月19日（木）：参加者42名
「金融マーケットの現状と展望～国際情勢の潮流変化を展望して～」
講師：内海公博（SMBC　日興証券株式会社　甲府支店長）
「あなたは幸せですか？～幸福度から考えるやまなしの創生」
講師：佐藤文昭（山梨県立大学　理事）

⑧　実施状況：この企画は、平成29年度に新規に、県立大学が山梨経済同友会・山梨県生涯学習　推進センターとの連携による講座として、山梨県防災新館を会場に、夜間において実施したものです。夕方6時の開始で、休憩の 10 分を挟み、約2時間30分の講演（講義）を2名が担当し、4日間で8名の講師で組み立て、それぞれの講演の終了時に時間が許す中で、参加者との質疑の交流もあった。

なお、参加者へのアンケート結果のうち、参加者の年齢構成と職業は以下のとおり。

（1）：参加者の年齢（人）

実施日	19才以下	20～30代	40～50代	60代	70才～	未回答	計
10月12日	1	11	14	2	5	1	34
10月13日	1	2	17	5	3	2	30
10月17日	0	5	12	3	6	0	26
10月19日	0	9	9	1	2	1	22
合計	2	27	52	11	16	4	112
%	2%	24%	46%	10%	14%	4%	100%

(2)：参加者の職業

実施日	会社員	自営業	パート職員	学生	専業主婦	無職他	未回答	計
10月12日	17	1	0	1	3	8	1	3
10月13日	14	1	0	1	3	4	4	3
10月17日	14	1	0	0	2	6	1	2
10月19日	12	1	0	0	1	1	0	7
合計	57	4	0	2	9	19	6	15
%	51%	4%	0%	2%	8%	17%	5%	13%

⑨　参加者の感想：＊山梨の特徴についていろいろな面から話が聞けて良かった。＊山梨の将来像を考えるヒントをいただいた。＊山梨が魅力ある県であることへの持って行き方が少し強引だった。魅力があれば人は減っていないと思います。＊こういう話は市町村担当者に周知したら良かったのでは、と思われました。＊現在活躍されている経営者の生の話が聞けてたいへん参考になった。＊話の内容は難しかったが、日本が抱える課題や対策など非常に勉強になった。＊高校生でも来られるような時間帯に講座があるとよいと思いました。＊やまなしの創生を語るにそぐわないテーマもあったと感じましたが、より幅広い講師により

継続的な実施を大いに期待しています。

（文責 ： 輿水達司）

（３）平成 29 年度やまなし市民後見人養成基礎講座（第 4 期）

① 概 要

【第1回】平成 29 年 11 月 25 日（土）イントロダクション2：00～16：30（開場11：30）

「市民後見人の概要と地域における後見人の役割」

講師：リーガルサポート山梨 小林 恵 氏（司法書士）

【第2回】平成 29 年 12 月 2 日（土）13：00～16：30（開場12：30）

「後見制度と民法」

講師：松本 成輔 氏（弁護士）

【第3回】平成 29 年 12 月 9 日（土）13：00～16：30（開場12：30）

「社会福祉協議会等の活動からみた市民後見」

講師：宮沢 秀一 氏（社会福祉士）

【第4回】平成 29 年 12 月 16 日（土）13：00～16：30（開場12：30）

「障害者への理解と市民後見活動」

講師：柳田 正明 氏（山梨県立大学人間福祉学部教授）

NPO 法人みつばのくろーばー 堀内 直也 氏（社会福祉士・介護福祉士）

【第5回】平成 30 年 1 月 20 日（土）13：00～16：30（開場12：30）

「高齢者の理解と対応方法」

講師：小山 尚美 氏（山梨県立大学看護学部講師）

【第6回】平成 30 年 1 月 27 日（土）13：00～16：30（開場12：30）

「地域に根差す市民後見人誕生に向けて」

講師：森田 弘也 氏（甲府市家庭裁判所 主任書記官）

今泉 史 氏（笛吹市社会福祉協議会後見センターふえふき）

② 場 所

山梨県立大学飯田キャンパス C101教室（C館1階）

〒400-0035 甲府市飯田 5-11-1

③ 成 果

本年度は上記講座を開講し、34名の受講生が研修修了した。

平成 25 年度より地域連携の一環として人材育成に取り組み、1期からこの4年間で延べ122名の受講生が修了している。

今年度からは、山梨県の受託事業として、また、甲府市の市民後見人養成と連携した講義内容として、市民後見人の活動に必要な基礎知識の習得を目的とした養成講座となっている。

成年後見制度は、来年度から新たな利用促進基本計画を各自治体で策定することが求められ、後見人の役割を地域で担うものとして「市民後見人」の養成は、高齢化と人口減少が進む県内において、これからも大学の重要な役割と考えられる。

（文責 ： 澁谷彰久）

地 域 研 究 部 門

１．部門事業の概要

地域研究交流センター（以下センター）では、地域の現代的ニーズを踏まえた課題解決につながる研究、地域文化の発掘と活用、地域文化の創造につながる研究、地域に貢献する特色ある教育に関する研究を、3 学部・研究科の教員から参加を募り、研究事業を実施している。研究事業には、センターが重点的に取り組む必要があると認め、複数学部の教員が参加するプロジェクト研究と、それ以外で地域貢献に資する共同研究がある。

本部門はこの事業の実施のために、企画、募集、選考、予算決定、研究進捗管理、報告書作成、研究報告会開催、評価などに関わった。

２．部門事業の実績と課題について

（１）個別の研究事業

今年度の早い段階で、前年度に行われたセンター地域研究事業に係る評価を実施した。評価は評価委員会（学長、理事（教務及び研究担当の 2 名）、センター長、センター地域研究部門長の学内委員 5 名と学外委員 1 名の計 6 名）により行われた。地域研究事業に係る評価は今回が 3 回目（3 年目）で、学外委員には（公財）山梨総合研究所専務理事に就任いただいた。評価結果は、当該研究の代表者が引き続きセンター地域研究事業に応募した場合の研究の選考の参考とした。

今年度のセンター地域研究事業については、学内公募を行い、８件の応募があり、選考委員会による審査を経て、次に示す７件が採択され、実施された。

○国際文芸交流を通して地域文化の基盤を創造するプロジェクト
　（代表：高野　美千代）
○日本語を母語としない子どもたちの未来プロジェクト 2017
　－みんなで考える高校進学ガイダンス－
　（代表：萩原　孝恵）
○医療療養病床の看護師が入院患者の日常生活援助を実施するうえでの困難
　～医療療養病床（20 対 1）に勤務する看護師へのインタビュー調査から～
　（代表：小山　尚美）
○峡東地域創生に向けた地域コミュニティの創造に関する基礎研究
　（代表：安藤　勝洋）

○山梨県における外国籍住民の保健医療福祉をめぐって
　　－医療通訳の方向性の模索－
　　（代表：長坂　香織）
○高校生を対象とした自殺予防教育に地域住民の参加を試みた取り組みの成果
　　（代表：清水　惠子）

○妊娠・出産・育児に多様なニーズを持つ在留外国人母子への近隣住民および民間団体の支援の実態
　　（代表：小尾　栄子）

なお、個別の詳細な報告につきましては、本センターのホームページにて公開予定です。

（２）研究報告会

2017 年度の研究報告会を、3 月 27 日（火）に 2018 年 3 月 27 日（火）13:00～17:00 に飯田キャンパスＡ館 6 階サテライト教室で開催した。延べ 279 名と多くの参加があり、６つの研究事業の報告と活発な質疑が行われた。また、今回は特別企画として「高大連携事業」の成果として、山梨県立身延高等学校及び山梨県立甲府城西高等学校の生徒がそれぞれ発表を行った。

（３）実績と課題

今年度は、実情に合わせて「センター地域研究事業実施要項」をはじめ、各種提出書類等の整備や簡略化などに取り組み、見直しを行った。また、今年度で COC 事業が完了に伴い、来年度の組織改革に向けて、本部門が果たす役割を検討した。従来の地域ニーズを踏まえ、学部横断的・地域団体との共同で行う投稿形式のものを「共同研究」と位置づけるとともに、新たに COC 事業で展開されてきた地域との協働事業を担う大学で独自テーマを設定する「重点テーマ」に分けて展開することを検討してきた。今後は、研究成果を地域社会に還元し、地域を支える行政や産業界、団体、NPO、教育機関、医療機関、福祉施設、住民の方々に、より一層ご活用いただくため、研究成果の効果的な発信をこれまで以上に心掛けていきたい。

（文責：里見達也）

３．部門の組織改編について

(1) 組織改編の目的

地域研究部門の組織改編の目的は、平成 29 年度「地（知）の拠点整備事業（以下、ＣＯＣ事業と省略)」 の終了に伴い、地域研究交流センターが、ＣＯＣ事業の成果を引き継ぎ発展させることにある。それにより、地域のニーズを組織的に把握し、地方自治体や地場系企業など、外部団体との共同事業を促進し、あわせて実施外務資金を獲得しやすい組織や制度を学内に整備していくことにある。

（２）経緯

平成 29 年度のＣＯＣ事業の終了に伴い、地域研究交流センターでは、ＣＯＣ事業の成果を引き継ぎ発展させるための組織改編の議論を、2 年前より開始した。平成 27 年度第 1 回センター運営委員会（平成 27 年 4 月 21 日）において、平成 25 度に採択された「地（知）の拠点整備事業（ＣＯＣ)」により、本学に設置された地域戦略総合センターとの統合合併の検討を開始した。

その後、平成 28 年度第 9 回センター運営委員会（平成 29 年 1 月 17 日）において、これまでの地域研究交流センターの５部門を、全学的な委員会の再編や今後の地域戦略総合センターとの統合をにらみ、効率的な業務の遂行に向けて、以下の３部門に統合することとした。上記の組織改編に伴い、「山梨県立大学地域研究交流センター部門等運営要項」（平成２２年４月１日制定　地研セ第８１０１－１号）を改訂した。

【生成 28 年度の部門の統廃合について】

（現行）	（改訂）	
生涯学習部門	⇨	生涯学習部門
交流・支援部門	⇨	情報交流部門
情報発信部門	⇨	情報交流部門
戦略開発部門	⇨	地域研究部門
地域研究部門	⇨	地域研究部門

平成 29 年度は、ＣＯＣ事業の成果を引き継ぎ発展させるため、組織改編の最終段階として地域研究部門の改革と今後の展望が議論された。

（３）平成 29 年度の組織改編方針

平成 29 年度 は、第 5 回センター運営委員会（平成 29 年 9 月 26 日）、第 8 回センター運営委員会（平成 29 年 12 月 19 日）において、地域研究部門の組織改編と今後の展望が議論された。

以上の論点を整理し、二戸地域研究交流センター長より、「地域研究交流センター業務見直しに伴い決定すべきこと･検討しなければならないこと」（平成 29 年 12 月 19 日）が提示された。その後、同論点整理に基づき、第 9 回センター運営委員会（平成 30 年 1 月 23 日）において、地域研究部門の組織改編が再度議論され、平成 30 年度に向けた方針が決定された。決定された主な内容は、以下の通りである。

ア「地域研究事業の実施に関する要項」の改正等について【地域研究部門】

「地域戦略総合センターの統合に伴う地域研究交流センター業務の見直し」（図表 1）に基づき、センター業務の見直しに伴う地域研究部門の組織改編について報告があり、以下のとおり了承された。

（ア）平成 30 年度より以下の実験を部分的に開始する。右の実施に当たっては、平成 30 年度は、引き続き部門毎に教員を配置するが、下記ａ） ｂ）の組みも試行し、新システムが機能するか否かを検証する。

ａ）部門を横断して委員が移動できるように、事業ごとにユニットを形成する。

ｂ）「地域との対話」→「地域研究事業の実施」→「地域での研究報告会の開催」を 1 サイクルで運営する。

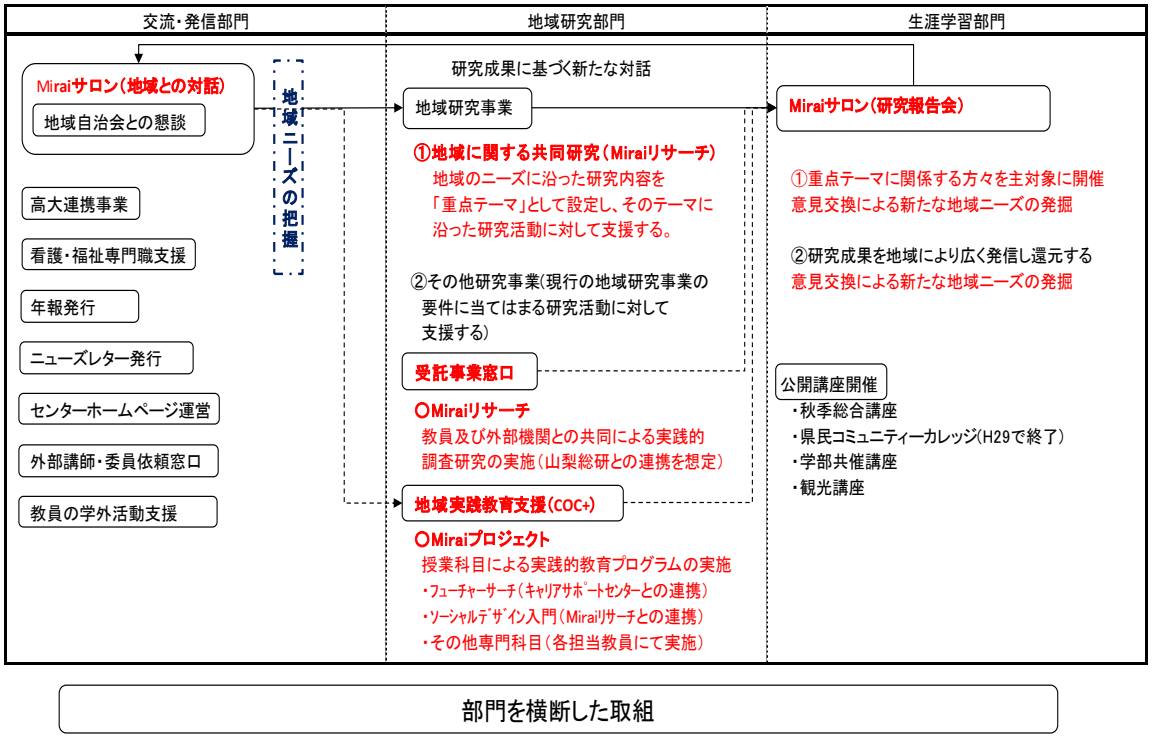
（イ）平成 30 年度より、受託事業窓口となる教職員（コーディネータ）を配置し、外部団体との協議、事業実施の際に、アドバイス・調整・事務手続きなどを行う。外部資金を獲得した際も、研究活動がスムースに行うことができる体制を構築する。

（ウ）平成 30 年度以降、コーディネーターと、それを支える教員を各学部から 1 人配置する。右により実際に外部より事業依頼があった場合、受託しユニットを形成できるか否かを検討する体制を整えていく。

（エ）地域実践教育支援（Mirai プロジェクトなど）は、学生も参加できるアクティブラーニングとして実施することを検討する。その調整もセンターで対応していく体制を検討する。

図表1、地域戦略総合センターの統合に伴う地域研究交流センター業務の見直し

見直し（案）



部門を横断した取組

（文責：吉田均）

事 務 局

１．運営委員会記録

１．第１回　平成２９年４月１８日（火）

主な協議・報告事項：平成２９年度運営委員と部門配置について／平成２９年度地域研究事業への参加者募集について／平成２９年度観光講座について／平成２８年度地域研究事業評価委員会の開催について／平成２９年度当初予算について

２．第２回　平成２９年５月１６日（火）

主な協議・報告事項：平成２８年度地域研究事業評価委員会の開催報告／2017 日本で生活する外国人のための「日本語・日本文化講座」の開催について／甲府城西高校との高大連携事業について／平成２８年度業務実績報告について

３．第３回　平成２９年６月２０日（火）

主な協議・報告事項：大学と地域自治会との懇談会について／池田・穴切地区総合防災訓練について／県民コミュニティーカレッジの企画について／秋季総合講座の企画について／平成２９年度地域研究事業の選定結果について／「地域研究事業の実施に関する要項」の見直しについて／子育て支援フォーラムの開催について／観光講座の開催について／地域戦略総合センターの事業について

４．第４回　平成２９年７月１７日（月）（メール会議）

主な協議・報告事項：「外国につながりのある子どものための日本語作文コンテスト2017」の共催申請について／ニューズレター発行の進捗状況について

５．第５回　平成２９年９月２６日（火）

主な協議・報告事項：県立農業大学校との連携協定について／リコージャパン㈱販売事業本部山梨支社との連携協定締結について／拓殖大学・山梨総合研究所との連携協定締結について／平成３０年度当初予算について／「大学の地域貢献度に関する全国調査」について／ＣＯＣ事業終了に伴う業務の見直しについて／秋季総合講座の実施報告／県民コミュニティーカレッジの開催について

６．第６回　平成２９年１０月１７日（火）（メール会議）

主な協議・報告事項：平成３０年度当初予算について

７．第７回　平成２９年１１月２１日（火）

主な協議・報告事項：平成３０年度当初予算について／「学生優秀地域プロジェクト」

について／教員の地域貢献活動支援について／ＣＯＣ事業終了に伴う業務の見直しと組織について／穴切地区防災訓練への協力の実施報告／観光講座の実施報告／山梨経済同友会との共同企画講座の実施報告／県民コミュニティーカレッジの実施報告／「大学案内 2019」の掲載情報について／連携協定の締結について／「大学の地域貢献度に関する全国調査」の公表について

８．第８回　平成２９年１２月１９日（火）

主な協議・報告事項：センター業務の見直しについて／池田地区防災訓練への協力の実施報告／高大連携事業について／リコージャパン㈱との連携事業について

９．第９回　平成３０年１月２３日（火）

主な協議・報告事項：県立農業大学校との連携協定について／山梨日日新聞社との連携協定について／「地域研究事業の実施に関する要項」の改正等について／学生表彰規程に基づく表彰学生の推薦について／センター研究報告書及び研究報告会について／学生優秀地域プロジェクトの選考結果について／インバウンド観光に関するイベント等について

１０．第１０回　平成３０年２月２０日（火）

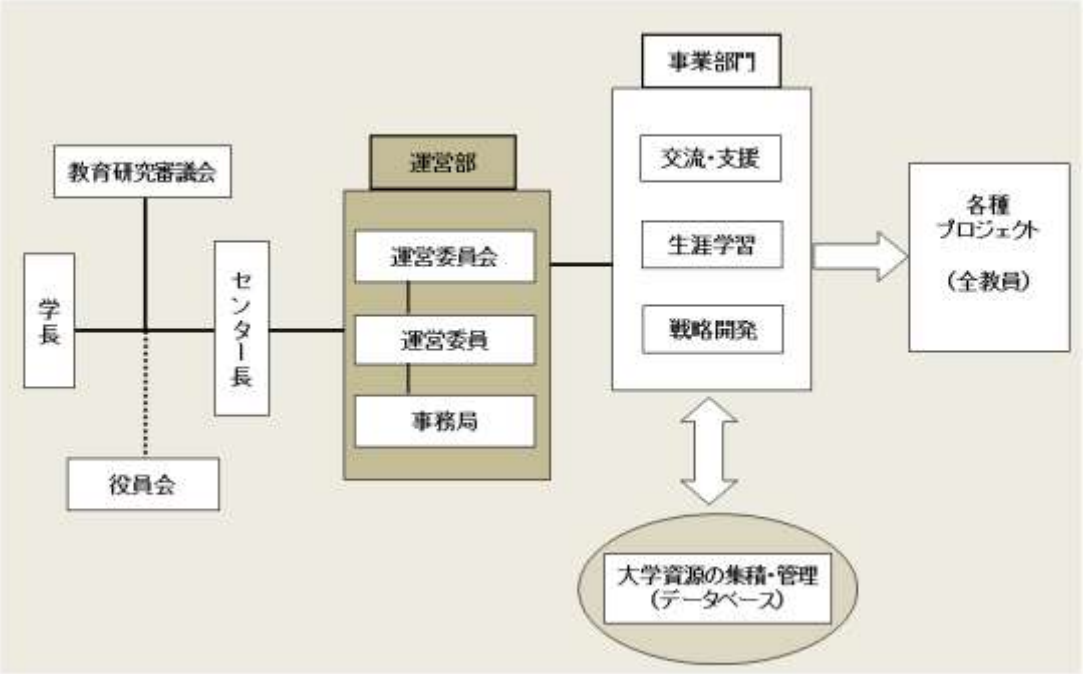
主な協議・報告事項：学生への感謝状贈呈について／特任教授の再任について／平成３０年度地域研究事業重点テーマについて／2017 日本で生活する外国人のための「日本語・日本文化講座」の実施報告／やまなし市民後見人養成基礎講座の実施報告／おもてなしのやまなし知事表彰について／池田地区健康まつりについて／高大連携事業の実施報告

１１．第１１回　平成３０年３月２７日（火）

主な協議・報告事項：次年度計画について／平成３０年度当初予算査定結果について／穴切地区自治会との交流について／ＣＯＣ＋中間評価結果について

2. 組織図・委員名簿

(1)組織図



(2)委員名簿(地域研究交流センター運営委員)

学部	学科	氏名	部門	専門領域
国際政策学部	総合政策学科	黒羽 雅子	生涯学習部門長	経営史、金融論
		伊藤 智基	交流・発信部門	行政法、憲法、環境法
	国際コミュニケーション学科	二戸 麻砂彦	センター長	日本語学、言語学
		吉田 均	地域研究部門	国際開発、国際協力
人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	青柳 暁子	交流・発信部門長	介護福祉(生活支援技術)
		石垣 千秋	生涯学習部門	社会保障、医療政策
	人間形成学科	里見 達也	地域研究部門長	保育学、教育学(特別支援)
看護学部	看護学科	渡邊 輝美	交流・発信部門	地域看護学
		野澤 由美	地域研究部門	精神看護学
		渡邊 由香	生涯学習部門	母性看護学
地域研究交流センター特任教授		輿水 達司	地域研究部門	地質学、地下水学、地球環境科学

３．年間の時系列記録

年　月　日	事業・行事名	部門名
2017年4月18日	第1回地域研究交流センター運営委員会	
2017年4月25日	地域研究事業評価委員会	地域研究
2017年5月14日	日本語・日本文化講座(1)	生涯学習
2017年5月16日	第2回地域研究交流センター運営委員会	
2017年5月21日	日本語・日本文化講座(2)	生涯学習
2017年5月28日	日本語・日本文化講座(3)	生涯学習
2017年5月31日	地域研究交流センターニューズレター「tobira」第30号発行	交流・発信
2017年5月31日	地域研究交流センター2016年度年報発行	交流・発信
2017年5月31日	地域研究事業選考委員会	地域研究
2017年6月11日	日本語・日本文化講座(4)	生涯学習
2017年6月18日	日本語・日本文化講座(5)	生涯学習
2017年6月20日	第3回地域研究交流センター運営委員会	
2017年6月25日	日本語・日本文化講座(6)	生涯学習
2017年7月1日	子育て支援フォーラム	生涯学習
2017年7月18日	第4回地域研究交流センター運営委員会	
2017年7月19日	地域自治会(穴切地区、池田地区)との懇談会	交流・発信
2017年7月23日	観光講座(1)	生涯学習
2017年7月23日	日本語・日本文化講座(7)	生涯学習
2017年8月27日	観光講座(2)	生涯学習
2017年8月27日	甲府市穴切・池田地区総合防災訓練への参加・協力	交流・発信

年　月　日	事業・行事名	部門名
2017年9月3日	観光講座(3)	生涯学習
2017年9月10日	観光講座(4)	生涯学習
2017年9月16日	秋季総合講座	生涯学習
2017年9月26日	第5回地域研究交流センター運営委員会	
2017年10月1日	日本語・日本文化講座(8)	生涯学習
2017年10月7日	県民コミュニティーカレッジ(地域ベース講座)(1)	生涯学習
2017年10月12日	山梨創生学講座(1)	生涯学習
2017年10月13日	山梨創生学講座(2)	生涯学習
2017年10月14日	県民コミュニティーカレッジ(地域ベース講座)(2)	生涯学習
2017年10月15日	観光講座(5)	生涯学習
2017年10月15日	日本語・日本文化講座(9)	生涯学習
2017年10月17日	山梨創生学講座(3)	生涯学習
2017年10月17日	第6回地域研究交流センター運営委員会	
2017年10月19日	山梨創生学講座(4)	生涯学習
2017年10月21日	県民コミュニティーカレッジ(地域ベース講座)(3)	生涯学習
2017年10月28日	県民コミュニティーカレッジ(地域ベース講座)(4)	生涯学習
2017年10月29日	日本語・日本文化講座(10)	生涯学習
2017年11月6日	地域研究交流センターニューズレター「tobira」第31号発行	交流・発信
2017年11月12日	日本語・日本文化講座(11)	生涯学習
2017年11月21日	第7回地域研究交流センター運営委員会	

年　月　日	事業・行事名	部門名
2017年11月25日	やまなし市民後見人養成基礎講座(1)	生涯学習
2017年11月26日	日本語・日本文化講座(12)	生涯学習
2017年12月2日	やまなし市民後見人養成基礎講座(2)	生涯学習
2017年12月9日	やまなし市民後見人養成基礎講座(3)	生涯学習
2017年12月10日	日本語・日本文化講座(13)	生涯学習
2017年12月16日	やまなし市民後見人養成基礎講座(4)	生涯学習
2017年12月19日	第8回地域研究交流センター運営委員会	
2018年1月9日	学生優秀地域プロジェクト選考委員会	交流・発信
2018年1月20日	やまなし市民後見人養成基礎講座(5)	生涯学習
2018年1月21日	日本語・日本文化講座(14)	生涯学習
2018年1月23日	第9回地域研究交流センター運営委員会	
2018年1月27日	やまなし市民後見人養成基礎講座(6)	生涯学習
2018年1月28日	日本語・日本文化講座(15)	生涯学習
2018年1月31日	学生優秀地域プロジェクト認定式	交流・発信
2018年2月20日	第10回地域研究交流センター運営委員会	
2018年3月4日	甲府市池田地区健康まつりへの参加・協力(看護学部)	交流・発信
2018年3月27日	第11回地域研究交流センター運営委員会	
2018年3月27日	2017地域研究交流センター研究報告会	地域研究
2017年5月～2018年1月	甲府城西高等学校「福祉と看護」高大連携事業	交流・発信
2017年5月～2018年3月	甲府城西高等学校 高大連携事業	交流・発信
2017年5月～2018年3月	身延高等学校 高大連携事業	交流・発信

むりょう 無料 Free

2017 (H29) 日本で生活する外国人のための

にほんご・にほんぶんかこうざ

日本語・日本文化講座

For foreigners living in Japan Japanese language and cultural course

外國人生活在日本、日本語・言與文化課程

일본에서 생활하는 외국인을 위한 일본어・일본문화 강좌

Para os estrangeiros que vivem no Japao Curso de lingua e cultura japonesa

Para los extranjeros que viven en Japon Curso de lengua v cultura japonesa

	前　期（ぜんき）	後　期（こうき）
時　間(じかん)	午　後（ごご）　1:00 ～ 3:00	
講座日(こうざび) ※日曜日(にちようび)	5月:14日、21日、28日 6月:11日、18日、25日 7月:23日(文化講座ぶんかこうざ:雅楽ががく)	10月:1日、15日、29日 11月:12日、26日 12月:10日 1月:21日、28日(文化講座ぶんかこうざ:書道しょどう)
	※何(なに)かあるときは、内容(ないよう)が変(かわ)るかもしれません。	
受講料(じゅこうりょう)	無料(むりょう)　※教材料(きょうざいりょう)は自己負担(じこふたん):2,000円～3,000円	
教　室(きょうしつ)& お問合せ(といあわせ) ★事前予約不要(じまえよやくふよう) (よやくはしなくていいです。)	山梨県立大学(やまなしけんりつだいがく)　飯田(いいだ)キャンパスA館6階 ☎　055-224-5260　〒400-0035　山梨県甲府市飯田5-11-1 ※無料(むりょう)の駐車場(ちゅうしゃじょう)があります。 ※連携(れんけい):山梨外国人人権ネットワークやまなしがいこくじんじんけんねっとわーく　オアシス	

クラス	レベル
会話 1(かいわ)	あいさつ、自己(じこ)紹介(しょうかい)からはじめます。
会話 2(かいわ)	日常(にちじょう)生活(せいかつ)に必要(ひつよう)な表現(ひょうげん)を学(まなび)ます。
会話 3(かいわ)	日常(にちじょう)会話(かいわ)の上達(じょうたつ)を目標(もくひょう)に、様々(さまざま)なテーマについて自分(じぶん)のことを話(はな)したり書(かいたり)します。
文　字(もじ)	ひらがな、漢字(かんじ)、JLPT日本語能力試験(にほんごのうりょくしけん)対策(たいさく)など。

甲府市役所(こうふしやくしょ)
市民課(しみんか)
外国人相談　☎055-237-5359
Counsultation for foreigners
外国人咨询　외국인상담
Consulta para extranjeros
Consulta para estrangeiros

山梨県立大学 第９回 子育て支援フォーラム 2017

おんがくの おへやへ ようこそ

コントラバスとピアノによる よくばりコンサート

音楽が大好きなのに、子ども連れではコンサートへなかなか行けないですね。今回の企画は、子育て中の皆様が、お子様と一緒に音楽を楽しむ会です。プロの演奏家としてご活躍中のお二人による演奏と参加型の音楽会。 お誘いあわせの上 お気軽にご参加ください！

演奏予定曲目

動物の謝肉祭より“象” ディッターズドルフ作曲コントラバス協奏曲 たなばたさま 星に願いを
きらきら星変奏曲 月の光 愛の夢 子犬のワルツ 幻想即興曲 トルコ行進曲 他

コントラバス **河原田 潤**

武蔵野音楽大学大学院音楽研究科（コントラバス専攻）修了。大学院在学中、福井直秋記念奨学生となる。コントラバスを村上満志、ツォルト・ティパイ、佐々木等、檜山薫の各氏に師事。室内楽を金谷昌治、故 清水勝雄、ロバート・バート、故 ウルリヒ・コッホの各氏に師事。アンサンブル・エスプレッソ、東京バッハ・カンタータ・アンサンブルメンバーとして活動している。郡山女子大学短期大学部音楽科、福島女子短期大学保育科非常勤講師、常葉大学短期大学部保育科（音楽科兼担）兼教授を歴任し、現在公立大学法人会津大学短期大学部幼児教育学科教授。

ピアノ
村木 洋子

東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業 同大学大学院音楽学専攻修了 1989 年 フランス音楽コンクール ピアノ部門第３位入賞 作・編曲の作品も多く、パソコンゲーム音楽（「冒険浪漫」システムソフト社発売）も手がけるマルチピアニスト 山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科 教授

2017 7/1 土 14:00～15:30

【会場】山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂 参加費無料
【対象】子育て中の方、子育て支援関係者、保育・教育関係者、学生、一般の方どなたでも
【定員】親子 50 組を優先 お一人のご参加もOKです！

【問い合わせ・お申込み先】山梨県立大学 地域研究交流センター Tel. 055-224-5260
【メールでお申込みの場合】件名を子育て支援フォーラム申込とし、ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp へ 6/27 までに代表者お名前、参加人数、お子様の年齢、ご住所、ご連絡先電話（携帯可）をお知らせください。ただし、定員になり次第、締め切らせていただきます。ご了承ください。

主催：山梨県立大学人間福祉学部 人間形成学科 共催：山梨県立大学人間福祉学部 福祉・教育実践センター 山梨県立大学 地域研究交流センター

山梨県立大学観光講座 2017

文化と自然で読み解く山梨

参加無料

豊かで多様な自然を有する山梨には、ユニークな自然の仕組みや、その大地を土台とした文化的景観が各地に認められます。そこで、これら大地の成り立ちを知り、さらにそこに生活の基盤を据えた人々の営みを歴史科学的に探ることから、山梨の文化や自然にまつわる価値観が再認識されることと考え、この度の講座を企画しました。多くの県民の参加を希望します。

開催時間 午後1時～午後4時30分
（受付は午後12時30分から）

開催場所 山梨県立大学飯田キャンパス 講堂
（甲府市飯田5−11−1）

7月23日(日)　富士山を芸術と文学から読み解く

彫刻に表現された富士山の信仰 …… 近藤暁子（山梨県立博物館）
近世の文学と挿絵から富士山を読み解く …… 石川　博（駿台甲府高等学校）

8月27日(日)　災害を山梨の自然特性から読み、そして予防策へ

忘れてはならない度重なる水害～山と水と共に生きる～ …… 小畑茂雄（山梨県立博物館）
医療分野から災害対策のメッセージ …… 前田宜包（市立甲府病院）

9月 3 日(日)　生きている大地の変遷と温泉形成とその歴史

甲府盆地の温泉と地下構造 …… 輿水達司（山梨県立大学）
山梨県庁内で発掘された温泉関連遺構 …… 正木季洋（山梨県教育委員会）

9月10日(日)　富士五湖の水中生物の世界と山麓で暮らす人々

富士五湖をめぐる暮らしと信仰 …… 松田香代子（愛知大学 綜合郷土研究所）
富士五湖の水生植物の世界 …… 吉澤一家（山梨県衛生環境研究所）

10月15日(日)　甲州道中の自然と文化の散策

奇橋猿橋と岩殿山 …… 稲垣自由（大月市郷土資料館）
甲府盆地：甲州道中沿いの歴史と景観 …… 新津　健（山梨県考古学協会）

参加申込：**TEL.055−224−5260　FAX.055−224−5386**
E-mail　ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp にてお申し込みください。
参加申込みにつきましては裏面をご覧ください

主催：山梨県立大学　地域研究交流センター

公立大学法人
山梨県立大学
Yamanashi Prefectural University

山梨県立大学　地域研究交流センター

秋季総合講座

よりよく学び 生きるために

人はいくつになっても、学び続けることで成長し、
学び始めるのに遅すぎることはありません。
この機会に山梨県立大学を訪れてみませんか?

異文化コミュニケーション

これって常識?それとも非常識?

萩原孝恵　准教授(国際政策学部)

「異文化コミュニケーション」は、実は、身近な問題として捉えることができます。あなたにとっての「常識」は、他の人にとっての「非常識」かもしれません。異文化を知ると、異文化コミュニケーションは楽しくなります。本講座では、「常識 vs. 非常識」という観点から、異文化コミュニケーションについて考えてみたいと思います。

緑・植物の力で地域を元気に笑顔に!

~苔玉つくりのワークショップ~

前川有希子　講師(人間福祉学部)
五味武彦　非常勤講師

前半は、人間力や福祉力の向上のために、草花や植物を育てることを実践されている山梨県内の2か所の事例を紹介します。また、私が取り組む認知症の人との苔玉つくりの様子から、介護現場におけるグリーンパワーの威力についてご報告させていただきます。
後半は、苔玉を作りましょう。緑を育てることが、福祉活動の1つであるとご理解いただけますと幸いです。

生きる意味について考える

~患者さんから教わったこと~

新藤裕治　助教(看護学部)

人生には、病気や別れなど、逃れられない困難な状況に直面し、時には生きる意味を見失うこともある。しかし人は、どんな困難な状況の時でも「生き生きと人生を送ることのできる存在」であると確信している。それは、看護師として関わってきた多くの患者さんから教わってきたことでもある。
人は、どんな困難な状況でも失望せず、豊かな人生を送るために、どのように生きる意味を見出していけばよいのか。皆さんと一緒に考える時間にしたいと思います。

2017年
9月16日(土)

開催時間　13:30~16:00(13:00開場)

開催場所　山梨県立大学飯田キャンパス
A館6階　サテライト教室

参加無料

参加申し込み　参加申し込みにつきましては、裏面をご覧ください。
申し込み期限　平成２９年９月１５日(金)　定員になり次第締め切ります
お問い合わせ　地域研究交流センター(学務課)　TEL　055-224-5260

主催:山梨県立大学　地域研究交流センター

公立大学法人
山梨県立大学
Yamanashi Prefectural University

平成29年度県民コミュニティーカレッジ地域ベース講座

リスクを知ってハッピーライフ

―地域と世界の隣人の暮らしから学ぶこと―

制度も文化も異なる国々にたくましく生きる人々の暮らしぶりを知り、日本の地域に生きる私たちが自分の暮らしを見直したり、再評価したり、あるいはこれからの地域づくりの方向性を探ったりと、楽しく学んで、私たちのハッピーライフの役に立てましょう。

第1回 10/7 土

ベトナムの豊かな暮らしと観光
―コミュニティの絆が生み出す元気と仕事―

山梨県立大学国際政策学部 講師　◇安藤 勝洋

第2回 10/14 土

救命救急の現場から

山梨県立大学看護学部 助教　◇高取 充祥

第3回 10/21 土

イギリスの医療制度と政治
―変容する福祉国家―

山梨県立大学人間福祉学部 准教授　◇石垣 千秋

第4回 10/28 土

気になる子どもと家族の生活

山梨県立大学人間福祉学部 准教授　◇里見 達也

時間　14：00～15：30（受付は13：30から）
場所　山梨県立大学飯田キャンパス A館6階 サテライト教室

参加費無料

参加申し込み	参加申し込みにつきましては裏面をご覧ください
申し込み締切	各講座開催前日(金曜日)17:00まで 定員になり次第締め切ります
お問い合わせ	地域研究交流センター(学務課) TEL 055-224-5260

◆主催：山梨県立大学 地域研究交流センター

平成２９年度山梨県委託事業

やまなし 市民後見人 養成基礎講座

第４期

成年後見制度について関心のある方、地域での高齢者問題・障がい者問題に関心のある方などを対象に、「やまなし市民後見人養成基礎講座」の第４期生を募集します。

6回の講座を下記の要領で開催いたします。講座履修者には修了証をお渡しいたします。

市民後見人の基本的なことからお話しいたしますので、初心者の方々、実務家の皆様もどうか奮ってご参加ください。

※講座内容は昨年度と同様です

参加料 無料

場所 山梨県立大学飯田キャンパス
C館1階101教室
※12/9のみA館4階406教室
甲府市飯田5-11-1 Tel 055-224-5260

申込 FAXかE-MAILで
お申込ください。
詳しくは裏面をご覧ください。

開催日時

13：00～16：30
※第1回のみ
12:00開始

11/25(土)
イントロダクション
「市民後見人の概要と地域における後見人の役割」

12/2(土)
「後見制度と民法」

12/9(土)
「社会福祉協議会等の活動からみた市民後見」

12/16(土)
「障害者への理解と市民後見活動」

1/20(土)
「高齢者の理解と対応方法」

1/27(土)
「地域に根差す市民後見人誕生に向けて」

公立大学法人 山梨県立大学
Yamanashi Prefectural University

2017 年度

山梨県立大学 地域研究交流センター 研究報告会

日時

平成 30 年 3 月 27 日(火)
13:00～17:00

場所

山梨県立大学 飯田キャンパス
A 館 6 階　サテライト教室

甲府市飯田 5 丁目 11-1

山梨県立大学地域研究交流センターでは、大学の知的資源を有効に活用することによって地域社会の発展に寄与したいと考え、本学教員による地域貢献に資する研究に対して支援を行って参りました。今年度もその成果を地域により広く発信し、より多く還元することを目的として「地域研究交流センター研究報告会」を実施します。どうぞお気軽にご参加ください。

参加方法
参加費無料で出入自由です。
事前申込も不要ですので、お気軽にご参加ください

お問い合わせ

地域研究交流センター(学務課)　TEL 055-224-5260

プログラム

13:05～13:30
国際文芸交流を通して地域文化の基盤を創造する研究プロジェクト
国際政策学部 准教授 高野 美千代

13:35～14:00
日本語を母語としない子どもたちの未来プロジェクト 2017 ーみんなで考える高校進学ガイダンスー
国際政策学部 准教授 萩原 孝恵

14:05～14:30
医療療養病床の看護師が入院患者の日常生活援助を実施するうえでの困難 ～医療療養病床(20 対 1)に勤務する看護師へのインタビュー調査から～
看護学部 講師 小山 尚美

14:35～15:00
峡東地域創生にむけた地域コミュニティの創造に関する基礎研究
国際政策学部 講師 安藤 勝洋

15:10～15:30
【特別企画】高大連携事業成果発表
①山梨県立身延高等学校
②山梨県立甲府城西高等学校

15:35～16:00
山梨県における外国籍住民の保健医療福祉をめぐって
-医療通訳の方向性の模索
看護学部 准教授 長坂 香織

16:05～16:30
高校生を対象とした自殺予防教育に地域住民の参加を試みた取り組みの成果
看護学部 教授 清水 惠子

16:35～17:00
妊娠出産育児に多様なニーズを持つ在留外国人母子への近隣住民および民間団体の支援の実態
看護学部 講師 小尾 栄子

2017 年度　山梨県立大学　地域研究交流センター　年報

発行者：地域研究交流センター長　二戸　麻砂彦
編　集：地域研究交流センター　　交流・発信部門
部門長　　青柳　暁子（福祉コミュニティ学科）
伊藤　智基（総合政策学科）
渡邉　輝美（看護学科）
発行所：山梨県立大学地域研究交流センター
住所：〒400-0035　山梨県甲府市飯田 5 丁目 11-1
TEL：055-225-5412　　FAX：055-225-1150
E-mail：ucre@yamanashi-ken.ac.jp
発行日：2018 年 5 月 31 日

UCRE

University Center for Research and Exchange

山梨県立大学地域研究交流センター

〒400-0035 甲府市飯田 5-11-1

TEL 055-225-5412　FAX 055-225-1150